

練馬通信

No. 412
令和3年9月1日
練馬第二小学校
校長 濱中 一

『津波てんでんこ』に学ぶ

校長 濱中 一

二〇一一年の東日本大震災から十年

が経ちました。これまでに私は、津波の大きな被害を受けた東北地方を何度か訪れました。震災後一年半経った石巻の海岸沿いは、流された民家の土台が残り、まだ瓦礫の整理が追い付かない場所が多々見られました。ラグビーワールドカップが行われた釜石のスタジアムは、震災から八年経ってきれいな運動公園となっていました。周辺の区画整理された道路沿いには空き地が目立っていました。いわきの整備された防潮堤の内側には、新しい家屋が建ち並び、当時の被害の大きさが容易に想像されました。

東北地方には、『津波てんでんこ』という言葉が語り継がれています。「津波が起きたら、家族が揃っていなくても、てんでばらばらに高い所に逃げろ」という言葉。家族のきずなを強さこそが、津波被害を大きくしてしまつた辛い歴史が何度も繰り返されたことを物語っ

ています。

しかし、そのような極限の場面で、果たして親は自分の子供を置いて逃げる事ができるでしょうか。何割の人が、自宅に残る家族を助けずに避難できるでしょうか。多くの人は仕事場から慌てて家に戻って家族の安否を確認するだろうし、倒れた家屋に挟まれて動けない知人を助けようとするでしょう。それでも東北地方には、冷酷にも聞こえるこの言葉が語り継がれてきたのです。

九十八年前の九月一日、関東大震災が東京を襲いました。そして、十年前には東京も大きな影響を受けたに東日本大震災がありました。しかし、練馬で想定される大震災による課題は津波ではなく、避難拠点対策、帰宅困難時の子供たちの引渡しであり、毎年九月には練馬区内一斉訓練が行われています。

練馬に住む限り『津波てんでんこ』と避難することはありませんが、周りに頼れる人やものが無いとき、家族とはぐれたとき、自分で考えて自分の身を守る「自助」意識が必要です。練馬小では、毎月の避難訓練では集団での避難を実践し、安全指導朝会や学級指導では安全に対する意識を高めます。しかし、突然の災害に直面したとき、最後に自分の命を守るのは自分です。一人一人が『津波てんでんこ』の自助意識をもてれば、結果、多くの命を守ることができるのです。

私たちは災害による辛い過去から命の尊さを学びました。防災の日を迎え、練馬小の子供たちの「自助意識」をさらに高めていきます。

緊急事態宣言の中、新学期が始まりました。行事の縮減、学習内容の制限、縦割り活動の中止等、制限のある学校生活が続きますが、今できる一つ一つのことを充実させ、感染症対策への高い意識を子供たちにもたせながら、日々の生活を充実させていきます。二学期も『笑顔あふれる練馬小』にご理解ご協力をお願いいたします。

★今月の生活目標

- ・ けじめのある生活をしよう。

☆重点目標

- ・ 静かにしてすぐ整列する。
- ・ 話す人の方を向いて、話をよく聞く。

七月の朝会より

○スマートフォン、タブレット、パソコン、何気なく書き込んだ言葉が相手を傷つけることがある。読んだ人がどう思うかよく考えなければならぬ。練馬小はけじめを絶対に許さない。

○大雨、地震など、災害が起こったときにいかに自分の命を守るか。学校にいる場合は、家の人が迎えに来るまで学校は君たちを守る。大人がいない場所で災害に遭ったらどうするか、家の人とよく相談しておくこと。

○傘の柄が曲がっているのは、傘を閉じたときに、水がしたたる先端を下に向けて持ちやすい形だから。後ろを歩く人に先端を向けない。したたる水を他の人にかけない。さり気なく他人を思いやれる優しい人になる。

○四月に決めた目標を続けているだろうか。目標は継続が大切。最後の週間、もう一度目標に向けて努力してみよう。

九月の行事予定

- 1 (水) 始業式・給食始
 - 2 (木) 計測 (三年)
 - 3 (金) 計測 (四年)
 - 6 (月) 計測 (二年)
 - 7 (火) 登校指導日、計測 (二年)
 - 8 (水) 計測 (六年)
 - 9 (木) 計測 (五年)
 - 11 (土) 土曜授業 (公開なし)
- 避難訓練
- 13 (月) 教育実習始 (10月9日まで)
 - 18 (土) 敬老祝賀会 (児童出演なし)
 - 20 (月) 敬老の日【休業日】
 - 23 (木) 秋分の日【休業日】

練二ランドを終えて

特別活動部

七月九日(金)に、練二ランドを行いました。二年生から六年生がお店を出し、全校児童がお客さんとなって楽しむ行事です。普段の学習を生かし、役割を分担したり協力したりして活動することを通して、友達とのつながりを深め、学級のとまりを高めること、他学年と共に遊ぶことを通して、他学年との交流を深めることをねらいとしています。

今年、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、兄弟学年だけとの交流となりましたが、子供たちはどんなお店にしようかとたくさんアイデアを出しながら話し合い、役割分担や必要な物作りなどの準備に一所懸命に取り組んでいました。当日は、どのお店も盛況で、お客さんを案内し、ルールを説明する子、いろいろなお店を回って楽しむ子など、子供たちが生き生きと活躍する姿を見ることができました。



最上級生としての一学期

六年担任

六年生として、気持ちも新たに取り組んだ一学期。一年生当番、登校班での役割、委員会活動・クラブ活動など、最上級生として、練二小の手本になろうと、一人一人が自覚をもって行動することができました。

その中でも六年生の仕事として、毎週の全校朝会で、六年生の代表が学校生活を振り返り、目標を発表しています。また、校旗当番として、校旗の上げ下げ

をきちんと行い、練二小の子供たちが元気に過ごしている様子を示しています。

六月下旬には、二年ぶりの水泳を行うことができました。児童は、久しぶりに水の中の身体の動きや、自分の泳ぎを確かめました。一学期の楽しかったこととして振り返る児童も多かった思い出の一つです。

二学期は、スポーツフェスティバルや学習発表会、移動教室など行事が多く、より六年生として心一つにして行動していきたいと思えます。さまざまな制限があるかもしれませんが、六年生の子供たちは、その中でできること、みんなで楽しめることを生み出せる、そんな団結力、行動力を発揮してくれると信じております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。



キラキラ一年生

一年担任

瞳をキラキラさせて、元気いっぱい朝の挨拶をしている一年生です。入学してから数か月が経ち、新しい学校生活にも慣れて、学習や行事などの学校生活の活動を体験しました。

四月当初は、優しいお兄さんお姉さんたちに見守られ、ランドセルの入れ方から一つ一つ教えてもらいながら過ごしていました。そんな一年生も七月には、一人で学習準備ができるようになり、休み時間には、黄色い校帽をかぶり、友達と校庭に飛び出して、汗を輝かせて遊んでいます。また、当番の仕事も少しずつ増え、自分でできると、とてもうれしそうです。

国語では、ひらがなを学び、文字を使って、短い文章を書けるようになってきました。算数では、たしざんやひきざんの学習に取り組んでいます。

十月には、小学校で初めてのスポーツフェスティバル(運動会)が予定されています。子供たちは、行事を通して心も体もさらに大きく成長していくと思えます。ご家庭での温かい愛情と支援が大きな力となります。引き続き、ご協力をよろしくお願い致します。

担任も一致団結して、全力で指導にあたって参ります。

スポーツフェスティバルに向けて

体育主任

十月二日(土)に、体育学習の成果の発表の場として、学年入れ替え制でスポーツフェスティバルの開催を予定しています。

スポーツフェスティバルを通して、全力を出し切ることの充実感、学年が一丸となり一つのことを成し遂げる達成感を実感させていきたいと考えています。半日の中で、全児童が自らの力を最大限に発揮できるよう指導を進めていきます。

九月より体育の授業で短距離走、表現活動の学習に取り組んでまいりました。まだまだ残暑が続くため、感染症対策に加え、熱中症等にも注意しながら安全に気を付けて練習を行ってまいります。ご家庭でもお子様の健康観察を十分にしていただき、一人一人が自らの力を発揮できるよう、ご協力お願いいたします。

当日も、密を避けるために様々な制限が予想されますが、ご理解・ご協力よろしくお願いたします。

※当日の日程や内容等、詳細については後日プリントにてお知らせいたします。

